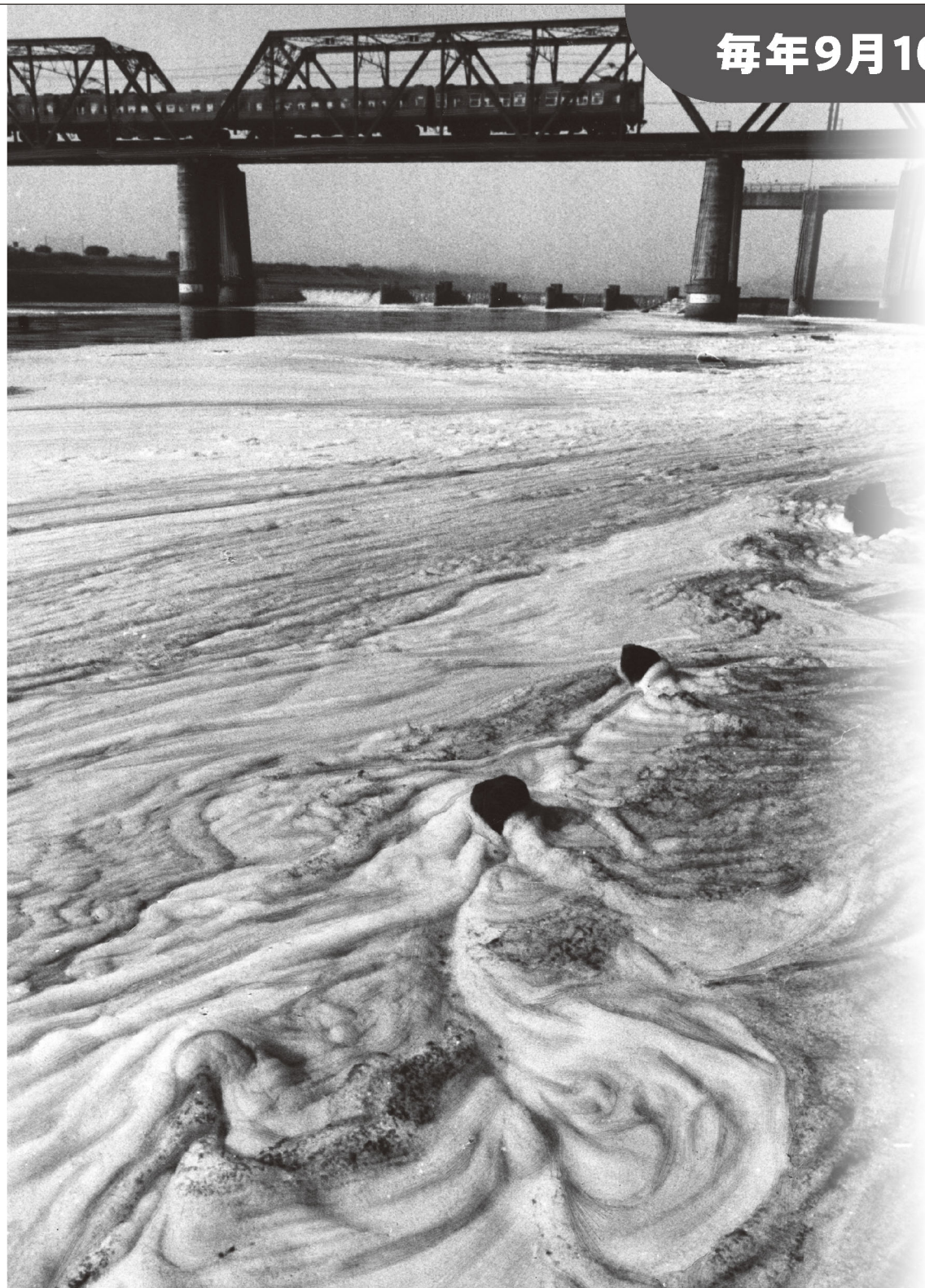




1970年

家庭から流される洗剤で、いつも泡だらけの多摩川

歴史の教訓、下水道の使命

2026年

下水道整備による水質改善で、大師橋を水面に映す多摩川
(白汚 零 令和6年撮影)



一般社団法人
東京下水道設備協会
三井田 健 会長

下水道設備の技術が暮らしと豊かな水環境を守っています

普段、下水道の存在を意識することは少ないかもしれませんが。しかし下水道は、いつも見えないところで東京の良好な生活環境を守っています。家庭や工場から出る汚水は、処理してきれいな水へと再生し、川や海など自然に還します。大雨が降れば地上から速やかに排除して、街を浸水から守ります。さらには処理の過程で発生する汚泥を焼却して、エネルギーに変換し、焼却灰は資源として再利用するなど、地球環境の保全にも大きく貢献しています。

こうした重要な役割は、水再生センターやポンプ所にある膨大な数の機械・電気設備が、24時間365日、常に正しく稼働し続けることで成り立っています。私たちの協会の会員企業は、これら設備の新規設置、老朽化した設備の補修や更新、また日常の維持管理を通して、日々東京の下水道を技術で支えています。家庭の排水口の先、きれいな川との間にある「下水道の設備」に少しでも関心を持っていたければ幸いです。



東京都公営企業管理者
藤橋 知一 下水道局長

先人の工夫を受け継ぎながら新たな技術で未来の下水道を築きます

東京の下水道は1884年の神田下水に始まり、多くの先人の工夫と弛まぬ新技術の開発の積み重ねにより、140年以上にわたり首都東京の発展を支えてきました。下水道は、快適な生活環境の確保や浸水の防除に加え、良好な水環境を創出する重要な基幹インフラとして、都民生活と都市活動に大きく貢献しています。

一方で、激甚化する豪雨や首都直下地震への備えなど、東京の下水道が直面する課題は時代とともに高度化し多岐にわたっています。このため、東京都下水道局は、「レジリエンス（強靭性）」と「サステナビリティ（持続可能性）」の確保を経営の基本コンセプトとし、将来を見据えた施設の再構築や浸水・震災対策、脱炭素化などを強力に推進していきます。

今後も、関係者の皆様と共に、DXやAIなどの新たな技術も活用して一つひとつの課題を解決し、強靭で持続可能な東京下水道を次世代へ確実に引き継いでまいります。



一般社団法人 東京下水道設備協会

設備技術で支える東京の下水道

アクアインテック株式会社／株式会社石垣／岩尾磁器工業株式会社／株式会社荏原製作所／カナデビア株式会社／株式会社クボタ／三機工業株式会社／住友重機械エンバイロメント株式会社／株式会社タクマ／月島JFEアクアソリューション株式会社／株式会社電業社機械製作所／株式会社東芝／巴工業株式会社／株式会社西島製作所／株式会社日立インダストリアルプロダクツ／株式会社日立製作所／株式会社日立プラントサービス／前澤工業株式会社／三菱化工機株式会社／三菱重工環境・化学エンジニアリング株式会社／三菱電機株式会社／株式会社明電舎／メタウォーター株式会社

(五十音順)